

令和5年11月14日

<佐々木 朗>

若宮正子さん講演会まとめ

1 講演名

<函館市DX推進セミナー特別編>

81歳で スマホアプリを開発した

若宮正子さん函館澆講演会

2 日時 2023年11月14日火曜日 14時から16時30分

3 場所 Gスクエア イベントスペースAB

函館市本町24番1号 シエスタハコダテ4階

4 講師 若宮 正子さん ITエバンジェリスト (伝道師)

5 講演題 「これからの時代を生きるには」

6 主催者挨拶 市村 淳一様(七飯町 株式会社ミューネット)

中小企業にこれからの IT をどう使うかデジタルトランスフォーメーションで研修を進めたい。皆さんに案内を差し上げたところ10日ほどで定員になり、関心の高さが示されることになった。今、情報格差が問題である。今回、コマーシャルでも有名な若宮正子さんへ初めて函館に来てもらうことになった。若宮さんとは一年前にフェイスブックを通して講演の打診をした。それがかない、今朝ほど、函館空港に迎えに行ったところ、付人はいなく、一人で飛行機にお乗りになってきた、我々は若宮さんをお守りするSPのような気持ちで、この会場まで来ていただいた。本日はよろしくお願ひします。

<函館市DX推進セミナー特別編>
CMでも有名な 世界最高齢ITエバンジェリスト
81歳でスマホ向けゲームアプリを開発した
若宮正子さん 函館澆 講演会
2023 11/14 火 14:00 ~16:30
Gスクエア イベントスペースAB
北海道函館市本町24番1号 シエスタハコダテ4階
テーマ「これからの時代を生きるには」
①第一部 14:00~15:00
若宮正子 講演会 テーマ「これからの時代を生きるには」
②第二部 15:15~16:15
座談会「どうする?」函館のデジタル事情
・若宮正子 (ITエバンジェリスト)
・田柳真美子 (はこだて未来大学教授)
・永澤大樹 (函館商工会議所中小企業相談所長)
・阿部光平 (IN&OUT ハコダテとヒト 橋長)
③質疑応答 16:15~16:25
④終了 16:30
入場無料
※要事前申込※
定員80名
どなたでも参加可能
先着順
申込締切日 11月10日(金)
お申し込み・お問い合わせ
函館市DX推進ラボ事務局 (函館市庁舎5F505号)
TEL 0138-21-3321 FAX 0138-27-0460
E-mail shingyou@city.hokkaido.hokkaido.jp
お申し込みはこちら

6 講演のまとめ

私が生まれたのは1935年4月昭和10年です。88歳になります。小学校の低学年時代は戦争に向かっていました。戦争が激しくなると子供たちは東京から地方へ疎開しました。私は長野県の湯治場に疎開しました。食べ物はありません。男性はだいたい兵隊に行ってしまう。お腹がすいてつらいというのが子供のころの思い出です。東京は大空襲になっていました。今のガザ地区と同じような感じです。

帰ってきたら両親が亡くなっている子どもたちがたくさんいました。ラジオの時間は尋ね人の時間でした。手がかりがラジオしかありませんでした。電話は一般家庭にはまだまだ普及してはいませんでした。

1945年8月15日 全てが変わってしまいました。昨日までよかったことがダメになり昨日までダメだった事が良くなったりしました。夏休みの登校日、子供たちを前にした校長先生は、何を言っているかわからないまま立っていました。教頭先生が代わりに、わが国は戦争を休止することになった。今は外国語こらしめる準備期間だ。」とおっしゃったのを覚えています。

9月にはマッカーサーが日本の最高司令官となりました。何もかもマッカーサーのことを聞かなければならない時代でした。昭和26年日本もやっと独立し、今の政治流れになりました。

私は、高校を卒業して銀行に入りました。当時はそろばんが主流の時代で、指でお札を数える時代でした。総理府などもみんなそろばんで計算していました。のちにアメリカからの事務機が入り6桁の計算ができる機会を見たときはカルチャーショックを受けました。

私は生まれつき右手が動きにくく、そろばんはできず、お札を数えるのもダメで、当時のお荷物社員だったと思います。

銀行でも少しずつテクノロジー化が進みコンピュータも入るようになってきました。その時私は企画開発部に配置転換になりました。その部署は高卒の私がとても行くところではない場所でした。

私は思いついたら何でもやってみるタイプでした。時代が新しいものを求めていることもわかりました。会社には提案制度があり業務の改善の提案を次々に出しました。100のうち99は没だったのでしようが一つは取り入れてもらえることもありました。上司は私の話をよく聞いてくれました。そんなことが、私がこの部署に移るきっかけになったと後から知りました。

銀行にもパソコンが導入され、その効果はとても大きかったです。個人でも買えるようになりました。私はとても早い時期にコンピュータを買いました。これがのちほどの人生をこんなに変えるとは思いませんでした。学問をしたわけではありませんが、とにかくいじくり回しました。いじくっているうちにできちゃいました。入門書などは読みませんでした。好奇心だけは旺盛でした。当時は電話で、文字だけはありませんが、通信ができ、全国と全国に友達ができました。

インターネットを使ったら海外にも友達ができるのはと思い英語をしようと思いました。そこで私も英語を習い始めました。月一回の英語塾に行きました。クリスマスではベストステューデントに選ばれました。私は塾の中で一番たくさん間違いをしたというのがその理由でした。その間違いのお

かげでクラスメイトも先生方もとても勉強になり この塾に貢献したというものです。英検は一級まではいきませんでした。準一級を取ることができました 海外との交流も可能になりました。

私は末っ子なので 母の面倒を 見るように兄弟たちに言われました。「まあいいや。」と思い 母の面倒をみました。外へ出かけられなくて、なんでこういうことになったのかなと思ったこともありましたが、ネット上のクラブで枕元に枕もとで交流することもできて良かったです。高齢者にも it はあった方がいいと思いました。動きがとれなくてもオンラインだったらできることがたくさんあると思い、私は IT 伝道者を名乗ることにしました。母はとても丈夫で百歳まで生きました。アパートから勉強会や講習会もたくさんしました。

2017 年 アメリカのトークショーの番組が東京であったときに私が呼ばれました。若い人に交じって、私のようなおばあちゃんが出てきましたが、私は「翼をもらった」と思いました。若い人からたくさん拍手をもらいました。

私はスマホをやり始めました。この年なので指がカサカサして動きにくいところがあります。若い人に年寄りが喜びそうなアプリを作ってもらおうとしました。しかし、「年寄りは何が好きかわからない。」と言われ じゃあ自分で作ってみるかと思ひ、若い人にアプリの作り方を教えてもらいました。会社の仕事でもありません。ノルマもありません 私は「ヒナダン」という お雛様を正しく並べ替えるアプリを作りました 若い人は 雛様の並べ方を知りませんから、お年寄りが勝つようなゲームになっています。

そんなある時 CNN のサイトからメールが来ました。アップル社の CEO が私を招待したいと言うのです。ビジネスクラス直行便の航空券も手配するというのです。周りは、「ガセメールに引っかかっちゃ駄目だよ。ちょっと厄介なことが起こるよ。」というもので、私は思い切って電話をしてみました。すると確かにお待ちしておりますというお返事でした。

アメリカで CEO にお会いしました お茶の間でごちゃごちゃ言っても伝わりません。「この人に言わなきゃ。」とふだん思っていることをいっばい言いました。最後に CEO は私をハグしてくれました。それから何年か経ちました。私は今、iphone 私は使っていますが、あんまり使いやすくなったなあとは思えないでいます。それでも当時 彼らの頭の中には 60 歳以上の人の需要は考えていなかったようです。ところが、ばあちゃんがアプリを作ることを知って、高齢者もマーケットになるということに気づいたようです。

海外の有名人と話したり 国連社会開発委員会でスピーチをしたりもしました。安倍総理の時、日本の内閣官房で人生百年構想会議というのがあり、私は学識経験者として招かれました。「私はとんでもありません。」と思ひました。私は高卒です。そうすると人口の 8 割以上が学識経験者になってしまうのです。私は、月一回私は総理官邸に行きました、河野大臣はわたくしのくしゃみが飛ぶぐらいの近さにいました。この会議でしゃべると犬の遠吠えではありません。言ったことは記録として残ります。「ここで言わないでどこでしゃべるのか」と私は思ひを伝えました。

特に私は過疎地のデジタルを使った活性化について意見を述べました デジタル甲子園なども提案しました。過疎地人手不足は深刻です。タクシーもなかなか来ません。免許がいない車、オンデマンドのバスなども提案しました。

本を書きました。毎日少しずつ自分をバージョンアップさせることにしています。今着ているこの服もエクセルアート作ったものです。

私は海外にも行きました デンマークに一人で行きました ポケットマネーで なぜデンマークかかというとデンマークは電子政府電子社会なのです。紙を一切使わないということです。本であるコロナの郵送などの手紙などは一切ありません。何でもインターネットにしちゃったわけです デンマークも高齢化が進んでいますが、ペーパーレス化をやってしまいました。一人できなとか、家族がいないと、市役所で教えてくれます。ヘルパーも教えてくれます。認知症以外は自分ですべての手続きをすることになります。70歳ぐらいまでは一人できるようになっています。生活においても極力機械を使うようになっていきます。日本では包括支援センターや介護支援制度があります。デンマークでは、自分でできないとどうしたら機械にやらせられるかというものの考え方をします。機械を改善して使いやすいようにすればいいという考え方。機械が変わればいいのです。テレビも見やすいところに自動的に動いてくれればいいのです。補聴器の有名なメーカーはデンマークなど知っていますか。それも機械を改善することの一つです。

デンマークはどうしてこのようなことを

したかという それは経済対策です デジタル大臣もデジタルを推進する会社の社長も女性でした。本当にその2人デンマークにとって最適なお2人だったから その役職に着きました 日本でも、本当にその道のプロフェッショナルな方を役職にするところは、見習った方がいいと思います。このようにして年間370億円の経費を削減したそうです。

エストニアという北欧の国にも行きました 寒い国の方がデジタル化が進むようです それは外に出る機会が少なくなるからですそういう意味では北海道もデジタル化が進みやすいのではないのでしょうか エストニアでは15分あれば会社が できるシステムがあります 私がアンケートをとったところ 93%の方がデジタル化で暮らしやすくなったということです ある時、出先で倒れた人がいましたが、マイナンバーカードを持っていたので救急車の中で病気の履歴や、飲んでいる薬がわかり すぐに治療を始めることができました。その人は助かりました マイナンバーカードの威力でした。

先進国の中では日本のデジタル化は特に遅れています 2000年に経てたIT戦略会議では、20年以上経っていますが、ほっぽらかしになってしまい、3年前にやっとデジタル庁ができました。遅れた理由として

- ①上に立つ人が高齢で積極的ではない、
 - ②日本の風土として白黒をはっきりさせたくない
 - ③IT化は選挙の票にならない
 - ④すべての国民が当事者意識がない
- などが考えられます。

スマホの利用率ですが 60歳代ぐらいま

では何とか何とかやっていますが、70歳代になると急激に減っていきます。ほかの先進国ではこのように急激に減るようなことはありません。自分には関係ないと思っ

ている人もいますし、やり方がわからない、そして必要だったら家族にやらせるとい

う人もいます。日本全体として IT の人材が落ちています。IT 人材が豊富な率が高いのは、福井県、徳島県、埼玉県などです。やはりやる気のある都道府県が上位を占めているよう

です。どうしても「わしは知らん。」という高齢者がいて限界はありますけれども、高齢者がデジタルと仲良く、誰一人取り残さないようにしていくことが大事であります。

It の導入講習会も大切ですが、日常に定着していくということこそ大切です。特に70歳以上の方については日常から使っ

て慣れてほしいなあと思います。日本は明確な目的や目標が定まってい

ないように思います。人材不足でありリテラシーも足りないと思います。熊本に5000人が働ける会社が、設立されようとして

います。しかしレベルが違うので日本人はついていけないようで、海外から指導者をたくさん呼んでいる現状があります。

日本は一度棚卸をし、今やっていることをきちっと検証し、いるものといらないものを判別して行くことが必要そうです。また大掃除をして、本当に必要なものを何なのかということを見定めていく必要もあり

そうです。AI はどんどん進みチャット GPT もどんどん開発が進んでいます。でも人間の本当の気持ちは機械にはわかってもらえ

7 感想

ません。あくまでも人間が機長であり、副操縦士が AI であることを忘れてはいけません。

デジタル化が進むと自治体の窓口はホームページになります。すべてのことがホームページから、手続きを行うことができるようになります。今日がデジタル元年1月1日となりますように願っています。

知識と体験・仕事・生活・読書などの得たものが消化され、発酵熟成し、智慧や叡智になることを期待いたします。

アプリを作ったおばあちゃんぐらいしか知識がありませんが、自分の人生を自分でたたきあげて築いていったすばらしい方だということを知り、一番前の真正面でお話を聞くことができ、とても充実した時間でした。

何事にも好奇心を持つ、無関心でないということは、私の生き方にも通じるころがありました。私は、コンピュータとお付き合いして45年になります。どちらかという

ます。

函館市の公式ラインからの情報で今回の講演会に参加することができましたが、やっぱり情報を取り入れていくアンテナは大切だと思いました。

私が持っている能力を発揮し、社会に少しでも役立てることができるよう今後も研鑽を続けたいと思います。

令和5年11月14日